

## 日本医学会分科会活動報告

学会名(No.102) 日本乳癌学会

代表者名 理事長 戸井 雅和

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

### a. 特に学術的に重要と考えられるもの

学術委員会として、本学会に関連して派生する学術、教育的事項に対処し、会員への知的普及をはかることを目的として、若手研究者を対象とした研究奨励賞、研究活動としての班研究、National Clinical Database (NCD)乳癌登録データを利用した研究課題の公募を実施し、学術的成果（英文論文、和文論文、学会発表など）を創出している。また、編集委員会として、学会誌 BREAST CANCER の編集および刊行を行い、国内外における専門領域の学術的発展を担うものとしている。

その他、乳腺腫瘍学、乳癌取扱い規約、乳癌診療ガイドラインを発刊し、診療・研究・教育などに関するランドマーク的な成果の英文論文化を行っている。

### b. 当該領域における国際的な役割

国際委員会として、乳癌およびその周辺疾患に関連する国際学会及び国外学会との連携に関する業務を所管し、本学会の発展と国際交流に寄与する活動を行っている。

主な活動として、海外留学を支援する International Fellowship Grant、国際学会への参加を推奨する SABCS Travel Grant（2020年からは Young Investigator Grant for SABCS）の公募や、GBCC（世界乳癌学術大会）・KBCS（韓国乳癌学会）との学術総会における Joint Session や年数回の Business Meeting といった交流がある。

また、サン・ガレン乳癌国際カンファレンスへのパネリストの派遣（学会から2名）を行い、その他、国際共同メタ解析やオーヴァービュー、国際共同臨床試験推進を支援している。

### c. 活動からもたらされる社会的な意義

診療ガイドライン委員会として、科学的根拠に基づくガイドライン（乳癌診療ガイドライン・患者さんのための乳がん診療ガイドライン）を作成、ホームページに掲載し、患者さんの意思決定をサポートするツールとして使用していただくことで、結果として乳癌診療の質向上に寄与することを目的とする活動を行っている。

また、登録委員会として、本学会が関わる NCD の入力支援ならびにデータベースの維持、管理を行うとともに、本邦の乳癌診療の状況を分析し、日本専門医機構の専門医制度、および本学会の専門医制度、ならびに様々な臨床研究に役立てることを目的として、NCD 乳癌登録データを利用した研究課題の公募を実施している。

これらは、新しい乳癌の医療法ならびに予防法開発の推進に貢献（多職種連携、患者・市民も含む形で展開）し、世界的な規模における乳癌に関わる医療の進展に寄与するものとする。

その他、AYA 世代のがん診療、がんサバイバーの様々な支援を患者・市民共同参画委員会活動等を通じて強く推進している

d.学会運営上留意している点

一般社団法人として学会活動の社会への透明性とガバナンスに留意し、利益相反委員会が、役員・各種委員会委員の就任規定に則った COI 管理を担っている。

また、以下の点にも留意している。

- ・ 会員一人ずつの意見を広く収集
- ・ 委員会活動に関する委員会間の情報共有と連携
- ・ 将来検討委員会で次の 2 年間の重点課題について積極的に取り組む体制の整備
- ・ 多職種連携体制の整備、課題の共有・共同解決
- ・ 課題解決に向けての他学会との密接な連携
- ・ 患者・市民参画など社会と強く連携した活動の展開
- ・ 情報基盤の整備

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

日本専門医機構による新専門医制度認定の乳腺外科専門医は、外科専門医のサブスペシャリティであり、日本外科学会と連携して専門医の育成に取り組んでいる。

従来からの学会認定の乳腺専門医は、乳腺外科医に加え、画像診断・薬物療法・放射線治療の分野も同じ基準で認定し、チーム医療の推進を図っている。学術総会では、関連学会との共同シンポジウムも企画実施している。